多世代家族が考える　それぞれの復興

子どもたちや若い世代への放射線の影響については多くの人が不安を抱いています。避難生活の長期化にも伴い、多世代家族は互いを思いやりながら、避難終了後の暮らしをどうするべきか悩んでいます。2つの家族の現在の思いを聞かせていただきました。

長泥行政区　鴫原さんのご家族

鴫原 良友さん　吉倉公務員住宅に避難中
美佐江さん
秀和さん※現在は一人暮らし
秀明さん
唯人（ゆいと）くん（小学4年生）・悠生（はるき）くん（小学1年生）

長泥を出ると割り切れない

良友さん　（長泥行施区の避難解除見込み時期の）5年で戻れるなら戻りたいが、今の除染のペースでは無理だろうと思う。でも、その前に長泥を捨てることはできない。出ると割り切れない。今考えているのは復興住宅への入居だ。長泥の人たちは、半分諦めながら、でも帰村したいという声も聞く。バリケードの中で作付けしたり、中山間事業をしたり。矛盾も感じるが、長泥に対して思いがあるんだ。10月に（震災で崩れた）白鳥神社の石灯篭を直し、掃除も40人位でやった。放射能が怖くないと言ったら嘘だ。それでも自分の故郷を守る、そのために働くというのは、生きがいなんだ。

秀明さん

美佐江さん　お父さんの言うように復興住宅か、2人になればどこでもいいかと思うけれど、孫がいるうちはね。ここの暮らしの便利さもあるよね。孫に「長泥に行って花火する？」と言われたこともあるけれど、お墓参りにも連れて行かない。長泥の家は、風呂や水回りが壊れて、電気のつかない所もあったりして。

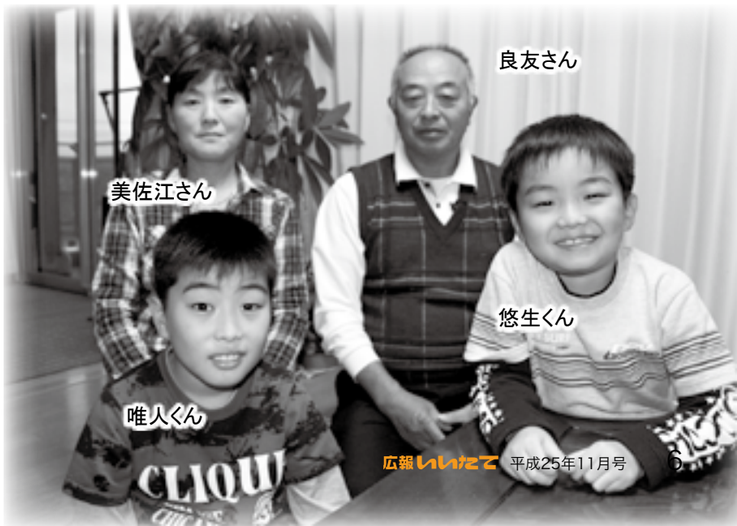
良友さん　村はどこにも逃げていかない。放射能も逃げていかない。村を思っている人の帰りたい心、故郷を大事に思う心を守っていければ、放射能が消えたら帰って行くんだから。離れていても村にいるような暮らし、忘れない心、村の素晴らしさをどこに残していけるか。息子や孫が暮らせるような未来に向けた村づくりをしてほしい。それにはまず今、心がバラバラにならないようにしないと。だけど年寄りは家に帰してやりたい。せめて復興住宅でも、我が家と思える所で人生を終えられるようにならなければ。むごいと思う。

子どもの考えも尊重して

悠生くん　小学校にはバスで行ってる。幼稚園の時から行ってるから大変じゃないよ。

唯人くん　村は自然がいっぱいで、家も広くて、遊ぶ所がたくさんあった。

秀明さん　子どもたちと一緒にいる方が良いと思うので、福島市に住み、南相馬市の職場に通っています。生活環境が整う場所であれば、復興住宅に皆で住むことも考えられます。自分の考えに「村に戻る」というのはあるけれど、周りが戻らず子どもが少なくなったら学校はどうなるかなど考えます。自分の考えだけではなく、周りの状況も見なければ。同じ友達と同じ環境でと思い子どもたちは村の学校に通わせています。子どもたちも「今のままがいい」と言いますから、その考えを尊重したいと思います。



上飯樋行政区　桑折さんのご家族

桑折 光さん　福島市の借り上げ住宅に避難中
利恵子さん
桑折 弘道さん　川俣町在住
美由紀さん
晴生（はるき）くん（小学5年生）・侑菜（ゆうな）さん（小学3年生）

農業ができなければ

光さん　どうなるものかね。村では養鶏をやっていて、鶏は3万羽いたんだ。宅地周りが除染されて戻り同じように養鶏をやっても、おそらく取り引きできるようにならないだろうね。養鶏場は山に囲まれているから、山を（除染）やらないと。そう考えるとすぐには戻れないと思う。

利恵子さん　我々は帰ってもいいの。でも百姓ができないのでは、戻れるか分からない。田んぼも山から流れてくる水でやっていたし。何かやって暮らすことができなくてはね。

光さん　除染作業に行っているから、村にはほぼ毎日行くが、家には行ってないな。今、福島市荒井で行者ニンニクを育てている。1反2畝に2万本植えて。

利恵子さん　孫が会津に避難している時は、会津の学校の運動会にも行って来たの。孫たちが近くに戻って来てくれたから良かった。原発が何ともなかったら、家族でいられたのに、いられない。それがさびしい。

大切な子どもたちのために

弘道さん　避難先から村内にある職場に通っています。住む所は子どもたちのことを優先し、川俣町に家を建て引っ越しました。アパートを借りていましたが、2部屋しかなくて。子どもは育っていくからね。今は違うようですが、私たちが家を建てる時は、住民票を異動しなければなりませんでした。ですので、自分たちが村の広報に出てもよいのだろうかと取材の話にはためらいました。

美由紀さん　子どもたちは飯舘の学校に通っていますが、最初は会津に避難したんです。1学期間は避難先の学校に通い、夏休みに戻って来ました。その後福島市の渡利に来て、さらに川俣へ。家はできるだけ村に近い所に求めました。

侑菜さん　村にいた時は、じいちゃんの鶏のところに入ると、鶏が道を空けるのが面白かった。外でままごとをしたのも楽しかった。シイタケを作っているところは「トトロの森」って呼んでいて、そこではタヌキを見たこともあるよ。

晴生くん　じいちゃんが捕ったタヌキ（はく製）が家にあった。家には大きな部屋がいっぱいあって、じいちゃんの飾り物がいろいろあった。

弘道さん　そうして育ってきて、やはり狭いアパートにはいられないですよね。

晴生くん　村ではゲームもしたけど、友達とは今より遊んでいた。村に帰りたいと言う友達もいるよ。